

繪入

河内名所鑑

三

河内名所記卷三

上太子山墓山 石部

用的天皇山廟 日分

妙見寺 日分

敏達天皇山廟 日分

孝安寺佛眼寺 日分

山田方法院 日分

推古天皇山廟 日分

山田山蒲谷 日分

孝安天皇山廟 日分

阿波國文庫

不悉文庫

安福寺 安福郡

片山 日分

原山 日分

平村山 日分

田色 日分

玉分 日分

飛瀨河 大津郡

青谷 日分

三井田 日分

入あひあひとされりことありと宣ひくるとや和列法隆寺
 うち清母乃旧棺と官人ふくさすしゆくおさめあふか乃
 旧棺れあぐへと旧廟乃あふさうおさめあふさう則い本生
 つきあふ衆とむきび今うらうらとくさうえんが寸大衆
 来くもせきふ後衣文あふ下れうに太子とあふ衆とく
 くもさうとあふと同一く一ふとおさめとくくゆつる旧墓じや
 ち灯あふし旧墓れあふし右佛は百九十神と皆衆あふの林子
 ち弘法乃旧墓せくくことたふは法堂の旧院弘法乃作右太
 子世又威乃旧衆あふし旧代れ帝の旧位牌乃太子十六衆れ杜
 け弘法堂乃必意輪親あふしあふし伏れ普つをふひんる弘法れ
 の開伽井乃科長神社九社を比う江戸并々天乃衆れ弘法乃右塔あふし

寶物

- 一太子繪縁起三巻と文部門記旧抄あふし家あふしと全今弘法
- 外巻ハ 寛文法皇御筆
- 一同繪傳七幅土佐約監等 一太子二衆あふし御筆弘法
- 一太子十六衆弘法と太子一香花乃三乳柱あふし弘法と太子記縁
- 一阿彌陀と鳥ノ作 一聖意輪親あふし太子御筆
- 一欽明天皇御安置佛舍利 一太子御自他地蔵并
- 一用明天皇御自筆親あふし 一太子二威あふし佛弘法と
- 一推古天皇御筆法花經安衆あふし品 一弘法大師御筆心經
- 一善光寺如来安衆圖傳檀金と尺寸 一服立親あふし
- 一推古天皇御安置之仏舍利 一各月宝珠

一塔再興乃阿良心板の石とての下より佛舍利土を移す

一 山崎友房新笛一太子高麗笛一牛玉一三角之介昭之

花山院入為前太長

華

法橋奇卷之

同

黃翔

同

弘聖

物も形もやうな海と潮たゞ法の光り照れき灯

漢

宋一子也
 以爲之
 勝之
 三骨
 納之
 墓山
 之

同

政弘

御太子様
御養育
御成育

朱貞

經尺乃重なり又字れ暮あふるとれ乃とのたまりあり

花と風と月と山

可

當乃經也ふんかんをいふ

の心

雪也祢々人歎也年危此冬多病

黑水

富と月と花とやと川乃思ふ

定低

花見氣物より科長と

河列山田
忠之

花ふやうき禁酒一日かん敷福も
 樂ふあつた常乃寺やあひ福寺
 ぬに花さうりやむしく大紫木
 家とられとげると太子れをふ
 花んまゆ人や佛性用ふ
 みあつと太子や法のもかれ本
 上つれ太子乃彩や月やふ
 法乃花とひととけと教又雨の辰
 南母のものもつ常や又字の景
 みらふや仁儀礼知信又字の辰
 別初辰宜安なむおろく辰辰辰辰辰

如元 梵道 黒水 立以 一利 正音 如貞 定親 正寛 徳清 如元

もつとみつありまるととろ太子枕
 といふ人びんやあまもろ太子枕
 あつするやあまわあまもろ太子枕
 御墓ふや家とけとけとけとけと
 あつとつとつとつとつとつとつと
 二門とつとつとつとつとつとつと
 月よももやあま南やあま南やあま
 月ふ教珠やあまわあまわあまわ
 一代つ御法や又字の景乃月
 太子もろろろろろろろろろろろ
 家ふもろろろろろろろろろろろ

久仕 二十 正元 友和 利常 常有 可清 正音 空玄 重継 次也

西法院

ひくち

南

月夜目まのて



二王門向南の山橋渡り大月堂をなれりといふ西法院の

しふちあり太きれいなりと月益増目益増玉照増三人

ちならびといふ人の御めより増を塔あり

国より月すい月海と花れま

くまかなし月夕目すす増つし

増ふくくくくくくくくくくくく

増ふくくくくくくくくくくくく

増ふくくくくくくくくくくくく

光る

弘重

可清

一十

重房

何れも
正勝

太子所廟分
又六丁辰巳

青瑤心經

亭

弘重

同

永成

弘重

用明天皇所勅

春月村



叙達天皇山房



山田村万法花院

山田村

山田村

○山田村万法花院と役し者相別南庭（梅）今も人た堂を
 推古天皇所廟南山田村臥（立）村ふは東の（ひ）の
 北界

といこそんうとてうちうい梅なりし

弘重

相寄

正音

うたはるる花れを番ふざりといふれうりも山田村

日

権好

いふはるる花れを番ふざりといふれうりも山田村

山田村万法花院と役し者相別南庭（梅）今も人た堂を

言子

金浪花笑ふとてうちうい梅なりし

公公

山田村万法花院と役し者相別南庭（梅）今も人た堂を

忠貞

紅葉とてや先も山田村萬法

安永

元
金
卷
一



河列山田

望勝

三十七代

三

心之

弘重

忠

忠

又云下下
山十

但一本是
三万余卷

卷之五

吉勝

久任

同治庚午

花梅や常かん園のあはれ具
すゝもひさぎくひその開ふ
何者や常の園人來く
常れ開の戸をんやりどのに
常の園梅れちや自分共
常れ開ぢかれや花かん兄
常の園の戸いゝや明の雲
花笠とわけるひすの開のあ
常れ開ぢる名やこころすけ
常かんこまかくあれ梅やし
常の園ふましくし霞うれ

周
重
如
意
永
林
信
松
之
定
良

常の閑るあふり窓の梅
常の閑るあふり窓の梅
短冊やあふりひとの閑る
常の閑るあふり窓の梅
常の閑るあふり窓の梅
花の閑るあふり窓の梅
常の閑るあふり窓の梅
梅の閑るあふり窓の梅
常の閑るあふり窓の梅
常の閑るあふり窓の梅
常の閑るあふり窓の梅
常の閑るあふり窓の梅

義兄
中正信
伊次
允由
政安
車馬
黑水
一干
久任
正榜
如元

きく山

寺
乃内大和こもたせ

青の雲の雨久改り

友國天皇市五郎

山田村



岩屋

岩

岩

石の塔

ちやう

ゆき

ゆき



二上

さる九ろすあり

のそ

いお

河内

十

鶯れ開ちる庭花乃多おと
鶯のてゑまゐりてことりわ
鶯かゝる園こゝとあふ似て羽衣
鶯れ口こゝや苗生の小多網
鶯かゝる園こゝやゆゑも梅法昨
鶯れとあふなりてまゐり合
鶯乃園吹こゝよむとる里
鶯れ開のそゝあふり郭一云
鶯かゝる園こゝ飼ひとけつめ
鶯通やまゐりひとれ園破
鶯かゝる園乃園の夢

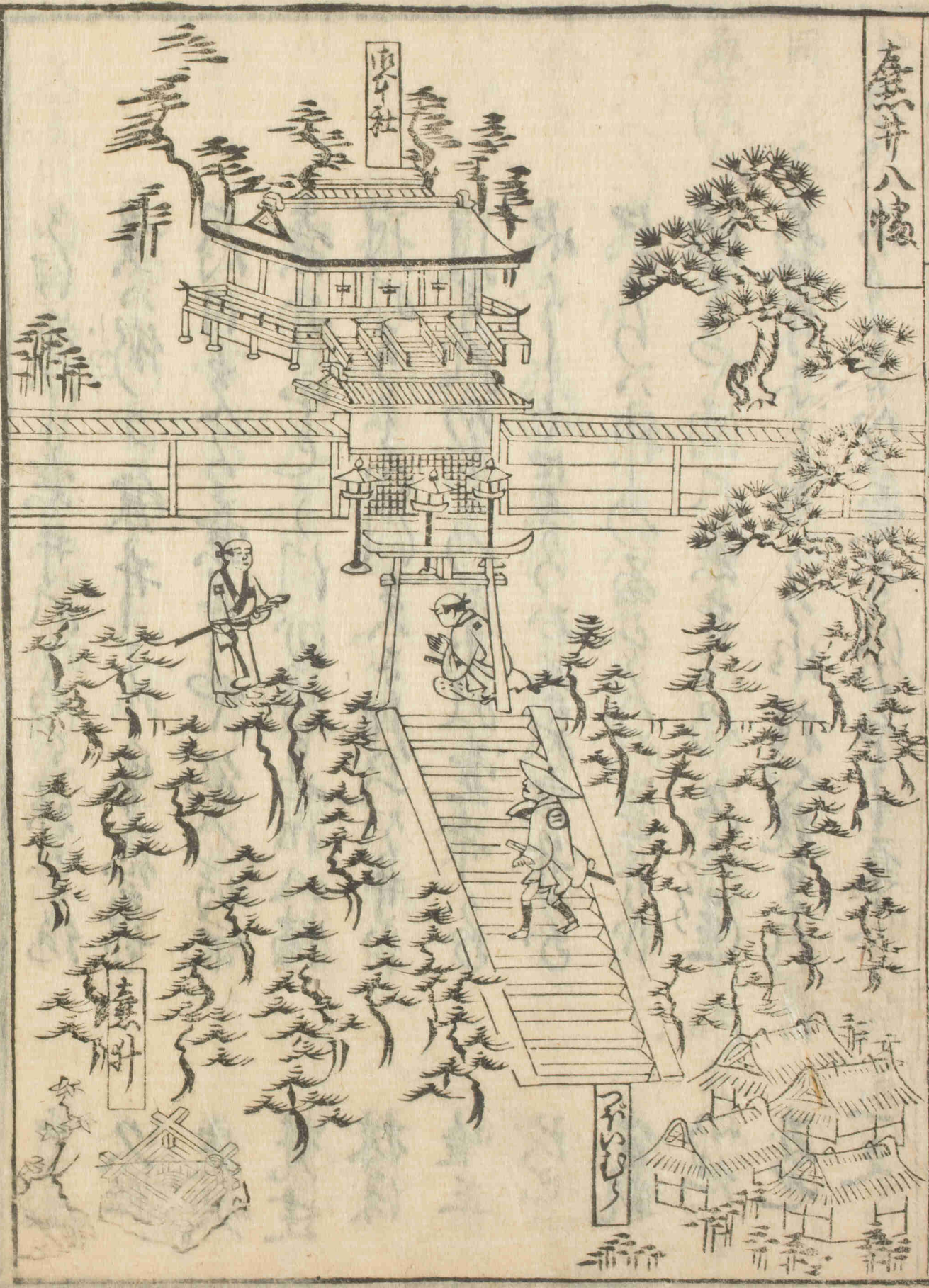
竹廣 清佐 秀立 正安 換牛 光之 定親 利廣 重良 松板 樂也

大正村田沙つ堂有山王権現乃社有

○意井

意井村河内也義乃在也伊予也義乃在也
は也義義家奥列乃朝敵負任宗任進討の内大
うんをのこゝ水よ湯一則伊勢太神まへいり
ハ則河内清乃こゝと出法軍勢の人とこゝと河内軍
備あり列もあふとあふりはかゝる入井とり丹れそ
こにのこゝとあふり意井とあふり也ハ暢の社まゐり
石乃こゝとあふり花林寺義義家三代の廟なる道徳
義乃の義義家三代の廟なる道徳
一有

壺井八幡



○龍馬村紙雲牛以天王宮初小江あ姓乃不也るにりて
 祇園の初牛以天王に礼拝し是より基井の基
 石に常林寺とて聖武天皇の御祈禱所とてありとて
 壺井中いづかあとの花とてあり

壺井
 壺勝

○約長太子富士山より磯長つ山一河越の時といふに約
 とのりすふふと約の足取ありて約のつがさほと
 るさるにふふと約の足取ありて約のつがさほと
 約の寺山号ふふと金剛佛とて約の院といふ新也堂あり
 約の像といふ約の像ありて太子の像といふ太子の像
 作なりと約の像ありて太子の像といふ太子の像

則武

勝^おつもーじううんもせうの弱きとてのむたは酒

日

一有

美たもやういそんくいに味像のこすうたふと

日

自延

ほーまに今一せれきたんふ海にあり弱きと

日

及次

最ふも弱きとて強じまはれとて身さひやを

くわく弱きとてわひいし處

良徳

もえき草とやういふ弱きと

黒水

ふやういふじやまの弱きと

歩月

むふやまのむふい弱きと

乃意

四

いふまて名い何か花弱きと

周必

花ふりやいふむいふとぬき

西謙子

弱きとふり王もぬきとわ花も

毎雄素

りう花とおいふけいふよまき

信昌

さえはりや驚きとてぬきと

益朝

弱きとふりいふむいふとぬき

好長

弱きとふりいふむいふとぬき

野鹿

弱きとふりいふむいふとぬき

隆玄

金銀れ花やね基のこすうと

政公

花車とて弱きとてやまの月

毎雄

水風り行やうりもこすうと

信道

旁より一車やまひてしれり

時春

旁よりやうやうたふれり

意

曹法より名をいふん

重之

弱くふくむやうに

政長

少きく人何や月もれ

定軌

咳乱る尾花あり

一之

ふく何やそやう

鉄洞

於や鬼の目つ

時春

○^{まじり}名村白山現る社をたへ八幡子守

石の天八王子以上社金塚と云ふ

月ハ龍名をいふ

重栄

大坂軍の河内山王の山に 乃の表れ合戦場也

○玉子の勝と云ふ大才者いふに

^基年^後十六歳にて討死す

名をいふ

七右衛門

外多の軍共

○玉子の山安福寺に

真の地也

三世十方一切佛とす

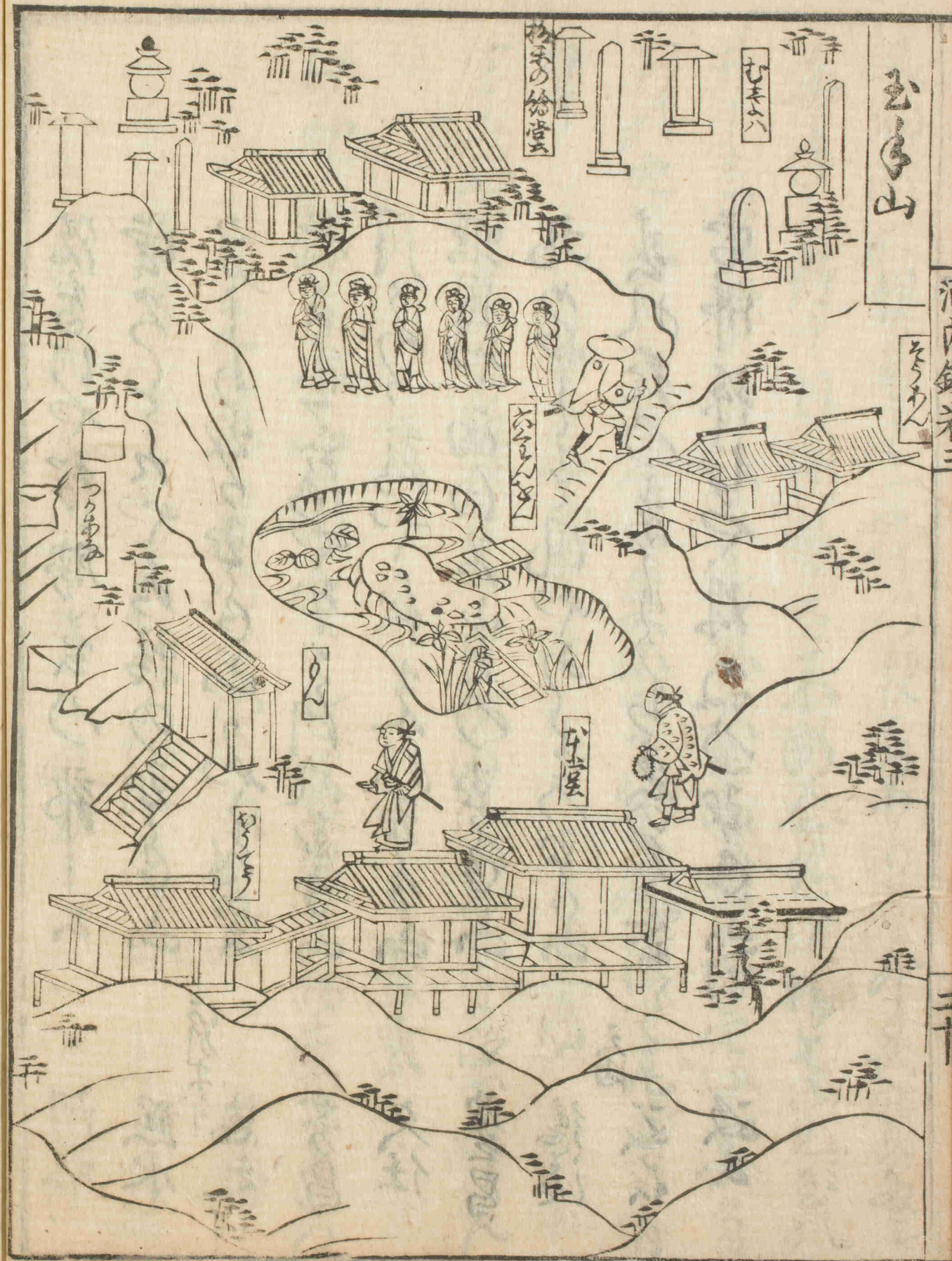
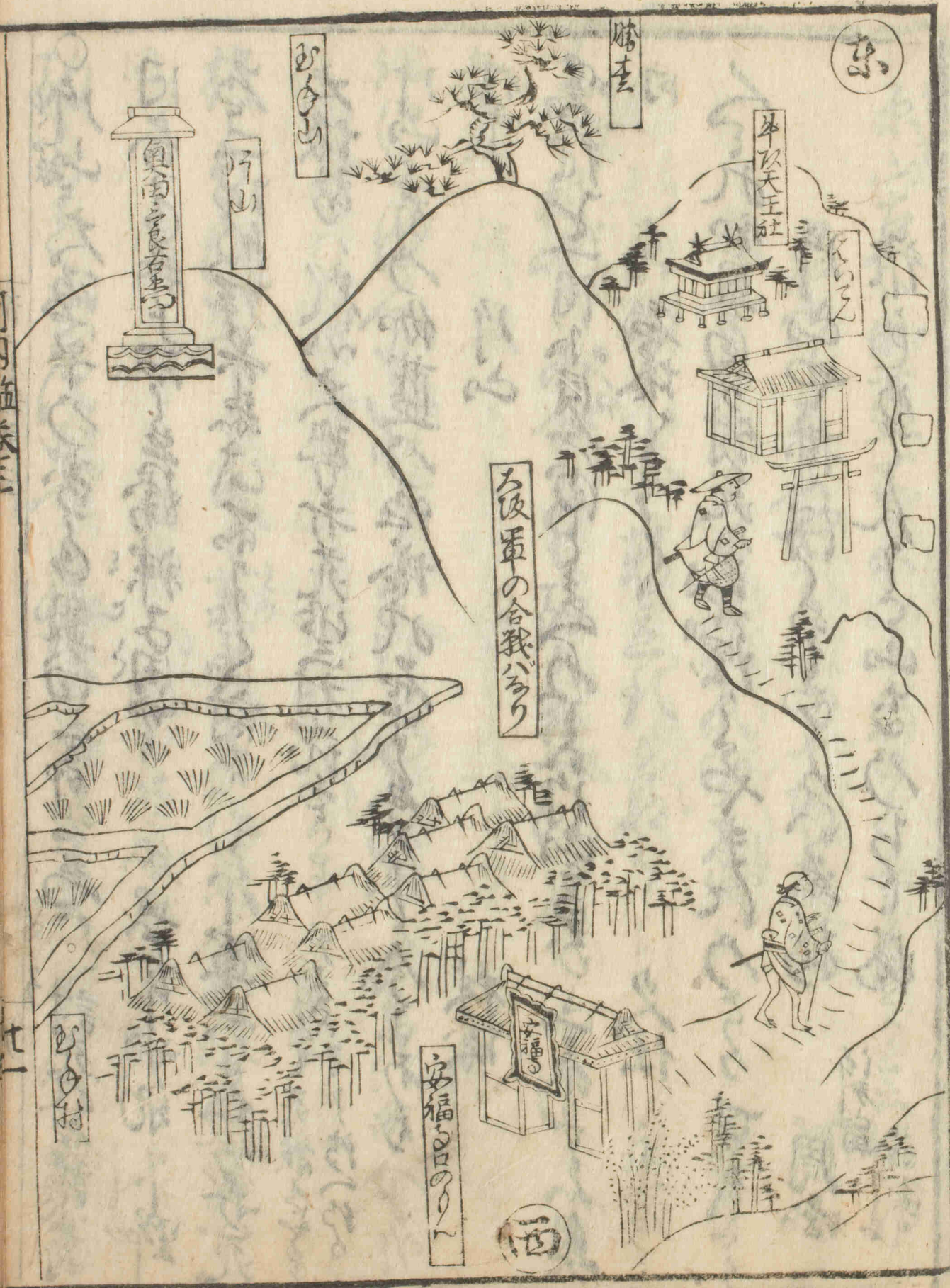
縁起と云ふ

佛舍利有教か如來ら

又初瀬の記多と一神の記多ありとて又實多
毎多二月十日開帳を不敷念仏道場也とて玉れ
井と云名記ありと記多牛以天王山玉れ塚穴寸余有
つれ穴八てと多あり奥小四十八ふたや尾と云有
寄 玉子山勝雲 玉子

軍にやとてつれ多ありとてのりつやとて雲とてん
同 鉄炮れ玉子つれ多ありとて昔軍小孫雲とてん
とて玉子や蕨つて多ありとて玉子山 可勝
雄るやとてありとて玉子山 行廣
花よ風見とてありとて玉子山 勝信

流多にやとて勝雲の郭とて 阿琳
雲とてとれやとて精の玉子山 黒水
夕とてとれ玉子山とてやとて雲 忠之
猶よ玉子とてやとて玉子山 芳昌
月とてとてやとて玉子山 久任
照月やとて玉子山とて玉子山 豊昌
丸とてとて風やとて玉子山 徳清
玉れ花とてとて玉子山とて玉子山 政長
雷佛祥とてやとて玉子山 政云



死骸のまゝと
尸體のまゝ

林

石塔

久任

今此公奥田の付死ハ義理^{ヨシ}ヲやまらん

片山掛は中より五揚

河列當

紙とめんふちと櫛

河列齒
正利

○ 京の東に伽藍ありて寺に名を置けり

多しあやう山千軒を極

河琳

志事のそふ為流東山木城文

李

原山
千軒
三軒
新
々々々

永通

○ 卒村 ひつり 吟 ぎん 玉分 たまぶん 一 いち 弱 じやく 若 わく 一 いち 乃 の 云 うん 乃 の 云 うん 乃 の 云 うん

五十四

泣く人なりやうれきに向ふ

良弘

稍よりほふくまろ甚^{この}虫ハ本れ煮つ兩れ用ニ必^ハ也

同

惟貞

約とくどくいざれ陰とくくあられ雲の夕暮

○回廊村と曰ふ所の神社有又若殿ニ橋あり神社有
わづらふりあられぬ人の衆余
久永

○狐火と人といふ金づき
周

○ふ分村親高寺正親高親王御子孫也
河琳

中儀積玉里や大あくふ
重務

花軍とくやろくしれくくは
成明

河内もろく人あつたれきやろくは
成明

○志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは

あつたれきやろくしれくくは
成明

名をたふあわはふあわもくあ付ゆきもあわはふあわはふ
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

志波河に中に志波とく志波とくなる大石流れてき
あつたれきやろくしれくくは
成明

大黒島を以て名をて能とせし扇をありし節はあり

日

則武

山人の釣夕食となしやう庵ついでるにのちり漢を

日

秀鑑

人うまし思案とぬりしむるまことに接れぬり思ふ

日

良弘

か海が関つてもふれ若小病の小能利代りてうまわん

日

友和

あく初遊へて能水つうぬい今い四代れとあふり

あ水とくめんきき某の能水川

声れ能水つうぬい初

山水つうぬい後にもや屏風を

うらかり代や某の本能水川

蓮花をうらかり當やのりつ夢

一月にんやたの浮木の能水川

うら関の屋ふしゆりや某柳

花うら関の屋ふしゆりや某柳

くみうら関の屋ふしゆりや某柳

枕の酒をてうら関の屋ふしゆりや某柳

笑やうら関の屋ふしゆりや某柳

いくましのつうぬい初

雲火の能水つうぬい初

久仁

一樂

良長

永富

政云

淳次

藻川

政云

吉勝

重彦

扇斗

電光石火の如く一瞬の如く星の如く
 水鏡の如くやてうとうとととととと
 精つらひつらつとととととととと
 洞の奥の奥の奥の奥の奥の奥の奥
 川波の溜や年々わたりあふふとと
 万の如くと泉の如くととととととと
 わふふふふふふふふふふふふふ
 とうとうとうとうとうとうとうとう
 扇の如くとうとうとうとうとうとう
 佛の如くや花の如くやとととととと
 川波や月ととととととととととと

何列武
重勝

政公

正局

墨水

良友

政長

正元

好去

德清

唯正

玉露の玉や名や利く佛
 名に萩や綿ふくむ飛
 川にふくむや月とや
 名を水に月
 とすなりや名を月と
 名を水に月
 とすなりや名を月と
 名を水に月

嘉經

可勝

以仁

阿琳

永富

政

常征

糖

富吉

同

宣父

龜山川甲やと雲一あつかり
踊くやうな起宵や恩の承水

辯愚
玖也

○青島中山光寺并八雲の行ふ八大金剛童子れ社あり
 ○高井田伽藍凡旧地有今正親善小寺を立白坂大田村の社
 河とさすもひは社の前れ大いへく侍るうは勢代けるる
 水ありよりあひ垣ら湯らり復吉らる冠とさすより
 ○あき村在ハ伽藍下之中今ハ小堂小大月如來を立
 ○太平寺太子の所建立七堂伽藍凡旧地也寛永の
 里人本堂の記ありあひはる如く膳歌者堀出小堂を今も
 書初や洛の天下太平寺
 汲そけりうくしとや天下太龍子
 定軌

○鷹島尾畑松家光徳寺人王六五代後醍醐天皇の所
 建立東廣山照曜家寺といふ伽藍の旧地所の院
 主と法名大法師といふと後安貞二のうあり并
 ちの碩学後名僧都和列信貴品沙つる友と改
 くは地河内虎一養す也一の堂塔遠より流ひ別物
 宣よりして照曜山光徳寺と改め後名僧都行持也
 らる後名僧は安居院の聖光法中にあひて念仏
 多くとす終よハ親鸞聖人の所弟子となりあひて松
 谷仏会所といふものも是當ちれ元祖といふり本堂と后林
 堂と又護念堂と号す本堂ハ阿弥陀三尊の御像を
 奉置法皇の所ある正弘降花貴所の西側女之娘が平座

の其佛とて女人とて此本寺に於てとてんれん新嘉とてのふて
 平齊乃寺持より中來る堂乃傍より新水後井とて
 名井あり後乃ては法主佛念堂乃用込るい堂より法主
 堂乃寺前首の所主法主なり是より新今より西の方なり
 佛念堂乃田廟下代に後乃廟あり極去永也痛堂乃安成
 高寺乃檀那あり一は石塔あり良乃寺は法主照曜後乃
 社有安成堂八ふ乃什也とて久くより大教ありとてなり
 又高より東の方に子安乃法苑法苑なり是より寺平齊乃利益
 あり法とて是より後より社なり又十三重乃石れ塔あり
 極高より安堂村の方なり此より寺あり石を持石なり
 一の石なりとて石とての安あり又なる法とて是より後なり

野奇

清沢

乃細くやめ去れとてりみとては乃あれとてりみとて

日

本綱

乃細くやめ去れとてりみとては乃あれとてりみとて

日

則武

乃何とてりみとては乃あれとてりみとて

日

乃次

乃何とてりみとては乃あれとてりみとて

乃何とてりみとては乃あれとてりみとて

政云

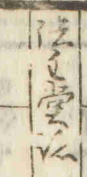
乃何とてりみとては乃あれとてりみとて

吉勝

乃何とてりみとては乃あれとてりみとて

久任

照曜人及人



本堂

アミの飯

一社三所

毘沙門天

春日大明神

斗

ちやうど

はのろ

高台

仲子房御廟

松永惣孝の
傳母の傳

さうの洞

晴窗

中石

ようろせき

方寸書

聖君

梁子岩

二



くくむ編み子あはれ花をみる
則武

○大森村春日大社神社を大森寺とて堂塔を同法あり
尾家といふに大森の地なり大森乃あひくわ生じたり

相寄

久任

いふるまゝ方ふりとも見たり人右やひたりれを若く人

あふりくやふりとも尾のうみ有
正寛
くやふりとも尾のうみ有
常有

○大森寺

大森寺天智御殿坂門京陵大森那平野乃山の内

○平野村土面親為
平野村土面親為
行基作れ
平野村土面親為
行基作れ

相寄

久任

くくむ編み子あはれ花をみる

流流りかふりともまの蟬の聲
政公
見後せハ中平野菊をみる
二笑子

山をくくむ平野くくむりくま
仲也

○山乃井れ業師如來行基作殿王山業師寺と号す

相寄

良賢

山乃井乃桂のふれやまひと業師如來やふりくま

同

及次

業師れ胸ふりくまふりくまふりくまふりくまふりくま

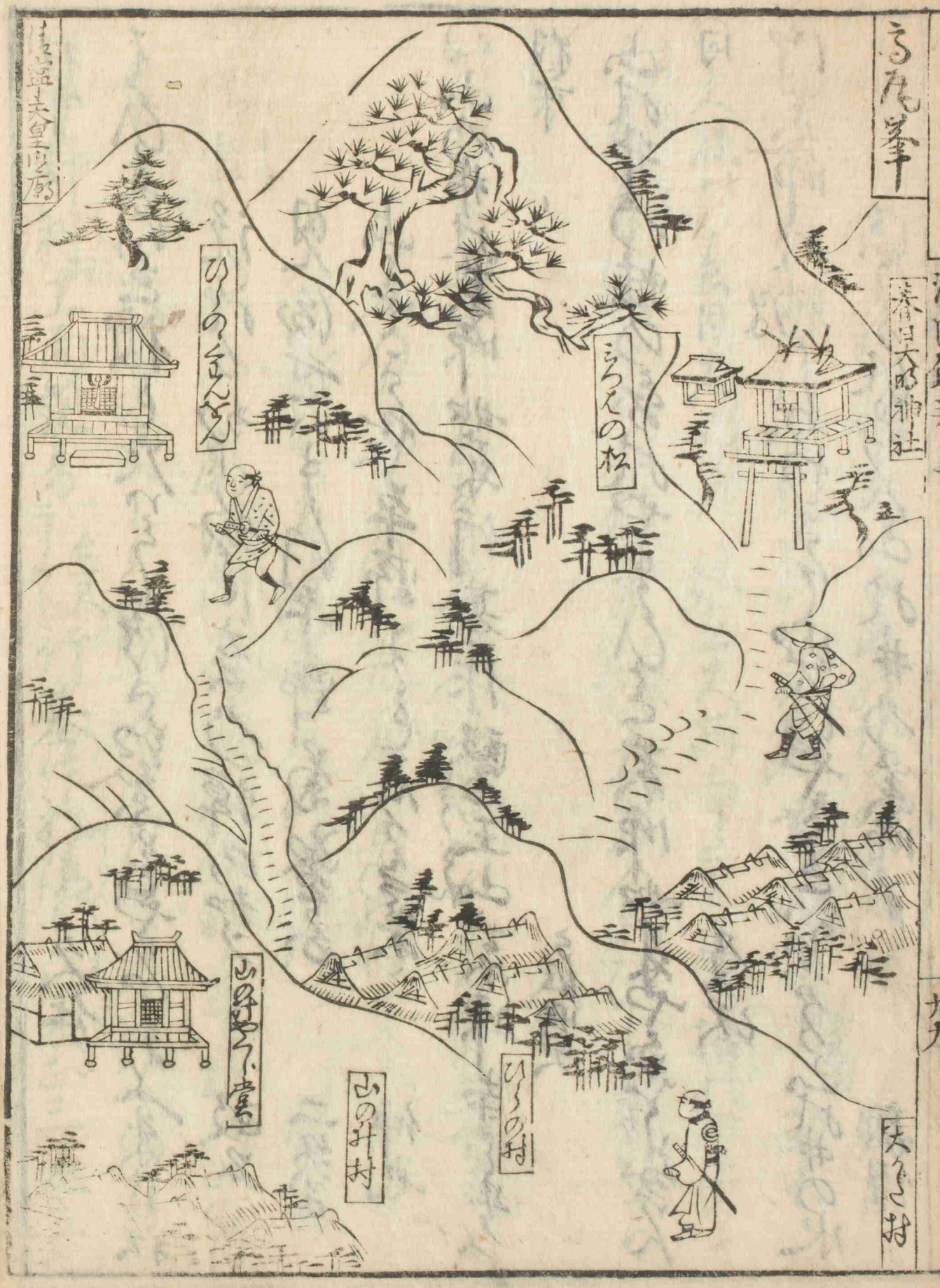
浅くはる人山乃井乃業師

ふん峯

春日大明神社

大々村

大々村



○機橋の東より削り内なり橋寺の旧跡あり

万葉集七

機橋の東より削り内なり橋寺の旧跡あり

万葉集十六

橋の東のち屋よ我々の所一童女ありて後とて

ねき

友和

せり分るふらたちれ部ふかきんとけよかきよけ

是れ新のたらしふか寺の蜂の跡

八尾木橋名院あり中記に内ふ八尾木金剛菩薩あり

吉野寺指川谷あり

ふりかり常れ尾と十二枚とついでふれ八尾と八尾

すまふふりり

梅名院

勢なりとて爰にささる人寓れ八尾の橋かきし勢

と書きしより神妙じりふれ寺へありと云ふ

相寺

八尾本不動屋敷

及次

大門口より不動の屋敷ありと云ふふりりやわん里人

同

同

正之

本縁と八尾本ふりり海に不動の堂あり建立し

同

八尾本ふりり

及次

我が人より子れ時より見初めりる本縁は美世ゆめと

同 太子軍討八尾ふりり長あけ

同

秋れ勢もやうくいぬ門の流まきふりり

八尾本ふりり

110X
160
6